近畿ブロック国際理解教育研究大会 大阪大会 現地理解教育分科会 報告

（司会） 野村　晃一（大阪府箕面市立第五中学校長）
（記録） 上田　龍之（大阪府摂津市立別府小学校長）
（参加者数）７５～５０名

Ⅰ滋賀県からのレポート　　報告者 滋賀県栗東市治田東小学校 教諭 梅田 薫

「毎日が感動，毎日が発見」～クアラルンプール日本人学校での取り組み～

クアラルンプールでの様子を画像で説明。パナソニックが撤退して児童数が半減（平成９年がピーク）。

当地は四季がないので掲示物などで工夫。校外活動はコーディネーターの存在が大きく，国会や裁判所の見学もできた。英語は習熟度別の英会話をはじめ，音楽，水泳でも多角的に行う。現地交流のカンポンホームステイは，夏休みに現地の家庭へ小学校高学年からの希望者で行った。盆踊り大会は盛大で４万人もの人々が集まる。

自分のこれまで思っていた常識は当地では常識ではないことを様々な場面で知る。文化の互いの交流で様々な感動と発見の毎日だった。

Ⅱ京都府からのレポート　報告者 京都府宇治市立笠取第二小学校 校長 駒田 泰久

「ふたたびの派遣・私の実践」～地球の裏側（チリ・サンティアゴ）で目指したこと～

以前ベルギーのブラッセル日本人学校に派遣され，今回のサンティアゴは再派遣。今回は管理職（教頭）として学校，組織，ＰＴＡ，地域のコーディネイトをする。

自分のモットーは「教員の和」を大切にする。「私立学校である」ことを常に自覚し保護者の意見を真摯に聞く。「最高のものを目指す」教育。そして「自分のことは自分で」行うということを念頭に研鑽を積み，教員のリーダーとなることを常に心がけた。サンティアゴは素晴しい自然と優しく素朴な人々で感動の毎日。

ぜひ再派遣を目指し，世界と日本の架け橋になってほしい。

Ⅲ兵庫県からのレポート　報告者 北京日本人学校 国際交流ディレクター 酒井 正人

「在外教育施設における国際教育の実践と課題」～北京，上海の実践から～

スカイプを通して，ライブで北京にいる酒井ディレクターと交流。その中でテレビ番組での上海での活動の紹介があった。上海は児童・生徒数が現在も急増中。北京オリンピックや上海万博で活気づく中国の様子が手に取るようによく分かった。

現地校交流など子どもたちによる国際交流の大切さとその充実をアピール。ディレクターの仕事は児童・生徒の国際的感覚を養うことと共に，中国と日本との架け橋としての重要な任務がある。制約の多い中でいかに効果的な活動を行うかが課題。現地校との交流でも参観や意見交換，サッカーなどスポーツの交流等を行っている。

さらに，中長期的視野に立った国際理解教育のカリキュラムが今後必要であることと，国際理解教育の発信者としての子どもたちを育てていくことの大切さへのメッセージがあった。